

## 第 3 回北海道科学技術審議会開催結果

1 開催日時 平成 29 年 11 月 7 日 (火) 15:00～16:40

2 開催場所 かでる 2・7 10 階 1040 会議室

### 3 議 題

- (1) 平成 29 年度北海道科学技術賞及び奨励賞候補者の選考について
- (2) 次期北海道科学技術振興計画（原案）について
- (3) その他

### 4 委員からの主な意見（次期計画に関するもの）

#### （1）重点化プロジェクト以外(基本的な考え方、基本目標、主な研究開発分野等)

- ・ 今、時代の転換点にいること、その切迫感、喫緊の課題、特に人口減少、高齢社会、格差の拡大といったものは、もっと感じられても良いのではないか。
- ・ 第 2 章の現計画の主な取組と今後の課題の記載では、できたこと、できなかったこと、その原因・要因、今後何をすることが見えない。「このまま、みんなやっていく」ということでは、何も結局変わっていないのではないか。  
→ もう一度、何が悪かったかという部分を含め、少し検討したい。人口減少や高齢化といったことについては、表現的な工夫の余地はあるとしても、意識としては書いている。

#### （2）重点化プロジェクト

##### <参考指標>

- ・ 目標値を作らないのであれば、プロジェクトがうまくいったかどうかということは評価できないし、マネジメントができない。目標値は是非つくるべき。  
→ 施策も研究開発も、道だけでなく、様々な関係機関に及ぶ中で、目標値を指標化することは困難。第 6 章の道が関係機関と取り組む、基本的な施策のほうでは、目標値を設定するが、重点化プロジェクトでは、例え、目標値を設定しても、道の予算だけでは達成できず、道としては責任を負えない部分がある。
- ・ 重点化プロジェクトは、様々な機関が同じベクトル、方向性の道標であり、北海道全体の指針なので目標値を設定することはできない。公設試などの場合と違う。
- ・ K P I は、自らが努力すれば達成できるものを設定するのであって、自らコントロールできないものを設定するのは趣旨としてそぐわない。参考指標みたいな書き方をするのであれば良いし、道がコントロールできる第 6 章に目標値を記載するのであれば、それで良いのではないか。
- ・ 第 6 章に目標値を設定するのであれば、逆に、第 5 章の重点化プロジェクトには参考指標がない方がすっきりする。
- ・ 最終目標の数値化は無理。できる筈がない。だから、6 章で道が主体となって指標を上げるとしている。

### <ロードマップ・将来の絵>

- ・ 重点的にここに注力するという書き方をすると、北海道は、どこに重点を置くのかということがわかりやすい。
- ・ 5年間のロードマップとして、最初にこういったものを重点化して始めていって、次にどう改善していくかというのは非常にわかりやすいが、重点化プロジェクトにはロードマップが無い。
  - 今、重点化プロジェクトに並べている中身は、実はある程度もう予算的に、国のプロジェクトに乗っかっているものもあるし、ただ方向性だけが決まっているものとか、色々あって、なかなか一様のロードマップというのを掲げることが難しいというのが正直なところ。
    - 前回からロードマップということを言われていることも承知はしているが、その同じ考え方で全体を通すことができなくて、ロードマップをお示しすることができていない。
- ・ 夢として書けるもの、目に見えて書けるものが一例あるだけでも良い。こういったものが書いてあるだけでも、ロードマップ代わりになる。
- ・ 部会では、将来の絵を描きましょうという議論があった。重点化プロジェクトの3つの分野をAI・IoTが横串で刺す時、AI・IoTを使った未来の絵が描ける、そういったことを入れようという議論があった。ロードマップがなんだこうだって話はあるが、そういった絵が1枚あれば、重点化プロジェクトが最終的にどこへ持っていくのかという形が見えてくる。
- ・ 道民が見た時に、こんなに北海道が良くなるのならうれしいなって解るような絵姿が描けるとすばらしいということがあって、さっきのロードマップ、絵姿といった議論があったわけである。
- ・ 重点化プロジェクトは、色々なものが全部入っており、非常に良くできているので、あとはその見せ方だけかなという印象。絵姿というのは、未来投資戦略2017の最初の方に絵があったと思いますので、ああいうので良いかなと思う。

### <AI・IoT利活用>

- ・ 他3つの分野の中に、どう関連するのか書き込むべき。例えば、人口減少、高齢化の中で、労働生産性の向上に向けて、こういうことであれば、人が減っていても、効率化ができ、北海道の売りになるなど、もう少し具体化すべき。
- ・ 全ての分野に、「この分野におけるIoTの活用」などといった項目を立ててしまえばいい。埋め込んでいると解りにくい

### <人材育成>

- ・ 全ての世代、全ての分野の人に対して、AI/IoT時代に何が必要かという、人材育成、教育が必要。AI/IoTの利活用を、人材育成・教育まで踏み込むと、それが結局、北海道で特に広がっている経済格差、教育格差の解消に繋がっていく、それが労働生産性も上げていくということになる。

## 第5回北海道科学技術審議会部会開催結果

1 開催日時 平成30年1月16日(火) 15:00~16:20

2 開催場所 かでる2・7 9階920会議室

### 3 議題

- (1) 次期北海道科学技術振興計画(案)について
- (2) 北海道科学技術振興条例の見直しの検討について
- (3) その他

### 4 委員からの主な意見(次期計画に関するもの)

#### <計画本文>

- 第6章に記載されている「指標」については、出典を記載したほうがいい。
- 全体的に中身が随分、整理されていて、すごくいいなと思っている。
- 資料編の「道内の主な試験研究機関等一覧」に漏れが多い。少なくとも本文に記載されている機関の名前は掲載しておくことが必要。また、法人名は省略せず、正式名称で記載すべき。

#### <計画概要>

- 概要は、あくまでも本文の概要として、項目立てなどは本文と整合性を図ったほうがよい。

#### <未来の北海道の姿>

- 「Future of Hokkaido」というこの絵が出てきているのが、すごくいい。こういったものを見せることで、平成30年度からの科学技術振興計画は、こういう北海道の姿を目指して進んでいくという一つの形になり、いわゆるロードマップにつながっていく。
- いろいろなことを盛り込み過ぎて、計画本文に書かれていないことも入っている。計画と並べて見ると違和感がある。
- この将来像は、概ね10年後の北海道を描いたものであることを強調すれば、計画本文との齟齬は納得できるのではないか。
- 3つの目標で分かれているが、1枚の図の中で、北海道の農村と都市部の市民生活を表現できないか。